

# 平成 29 年度高病原性鳥インフルエンザに関する 防疫演習の結果と検証の概要

## I 演習の概要

### 1 目的

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生に対する事前の準備対応状況の確認とともに、防疫対応の実行可能性及び課題に対する解決方針を検討する。

### 2 実施時期

平成 29 年 9 月 11 日～10 月 6 日

### 3 実施方法

HPAI 発生の際、飼養規模、鶏舎構造、立地条件等の点で防疫対応が最も困難と思われる養鶏場から「疑い事例」の通報があったと仮定し、当該農場の基本資料及び防疫措置計画に関する資料を作成するとともに、防疫対応を困難とする課題等について整理し、その解決方法等について検討を行う。演習終了後には、家畜保健衛生所担当者も含めた事後検討会を行い、課題に対する解決方策を検討する。

## II 結果と検証

### 2. 基本資料の作成について

基本的な資料は全ての県で適切に作成されていたが、今回の演習では一部で円滑な防疫対策を実施する上で不可欠な詳細データを求めたことから、情報が不足し、円滑に作成できない事例も確認された。また、防疫対応が困難と思われる農場については、平時から農場側と密に調整し、万が一を想定した必要項目の情報整理や認識の共有化が望まれる。

今後も国が実施する防疫演習を地域における防疫準備体制の充実を図る機会と捉え、積極的に活用いただきたい。

### 3. 防疫作業に係る資料について

各県においては、事前に防疫計画等を作成していたものの、今回の演習で各農場や地域における様々な実情を勘案し、時間をかけて再検討した結果、様々な課題が抽出された。

発生時に作業動線等の具体的方針がスムーズに作成出来るよう、対応が困難と思われる農場については、そのレイアウトや農場内の寸法、鶏舎構造、その他必要となる情報について予め整備するとともに定期的な確認が望まれる。

また、作業者の安全を考慮した作業動線の構築及び作業中の安全対策についても考慮しておくことが必要である。

#### 4. 事後検討会について

限定された時間内に資料作成を行う演習も必要であるが、課題について深く掘り下げ、実現可能性を含めて具体的に対応を検討する事後検討会は、問題点の明確化と課題の共有、方向性の決定ができ有用と考えられるため、今後も演習に取り入れていく。

#### 6. まとめ

平成 22 年度から実施している全国一斉の防疫演習は今年度で 7 回目であり、防疫資材及び人員の算定、消毒ポイント設置、作業動線の作成を当日中に実施することがこれまでの主な実施内容であった。

国、県、地域におけるそれぞれの演習内容及び発生経験県からの情報等を基に、各県とも防疫スケジュール等の基礎的な資料については滞りなく作成できることが確認されており、着実に防疫体制のレベルは底上げされているものと思われる。

一方で、各県や地域、農場によって抱える課題は様々であることから、全国統一の設定ではなく、HPAI が発生した場合に防疫対応が困難と思われる農場について、時間をかけて実践的な防疫体制を整えるための演習を実施したところである。

今回の演習における自県の結果を再確認するとともに、他県の有用な取組内容、優良事例については、地域の演習等に積極的に取り入れ、防疫体制の補完に努めることが重要である。

なお、演習の実施後に地域における様々な課題を抽出し、実現可能性を含めて具体的に対応を検討することによって、問題点の明確化と共有、防疫対応の方向性の決定ができ有用であったという意見が多かったため、今後も演習に取り入れていただきたい。